

令和3年度 第2回生涯学習センター運営審議会 会議録

- 1 開催日時 令和3年10月19日(火) 14時～15時30分
- 2 開催場所 中央生涯学習センター 601大ホール
- 3 出席委員 19名
西田委員長, 若園副委員長, 熊倉委員, 谷田貝委員, 内山委員, 吉澤委員,
岡田委員, 坂本委員, 菊地委員, 半田委員, 首藤委員, 阿久津委員, 石塚委
員, 小林委員, 谷内委員, 口川委員, 鈴木委員, 寺島委員, 小野委員
- 4 会議の公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴者 0名
- 6 内容
・議事
(1) 協議事項
① 令和4年度生涯学習センター事業運営の考え方(案)について
(2) 報告事項
① 令和3年度宇都宮市成人式について
② 地域かがやきプロジェクト(CKP)について
③ 事例発表
・ 国本生涯学習センター
・ 瑞穂野生涯学習センター
・ 河内生涯学習センター
- 7 発言の要旨

事務局

【本日の会議, 資料について説明】

西田委員長

本日は, 報告事項の中で, 国本, 瑞穂野, 河内地区の事例
発表が予定されております。講座のことを, 私自身も学びた
と思っています。

限られた時間の中ですが、実りある実践発表、質疑応答、議事進行に力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願
いいたします。

会議次第に基づき、議事を進めて参りたいと思います。改
めまして、議事進行につきまして、委員の皆様のご協力をお
願いいたします。

まず、2・議事（1）協議事項の、「令和4年度生涯学習セ
ンター事業運営の考え方について」、事務局から説明をお願
いいたします。

事務局

【資料について説明】

西田委員長

はい、ありがとうございました。ただいまの説明につつま
して、ご意見・ご質問ありましたらお願いいたします。時代
の流れといたしますか、コロナ禍に対応したことで、色々付け
加えることがあるということで、理解をいたしました。

よろしいでしょうか。

全員

異議なし。

西田委員長

ありがとうございました。他にないようでしたら、この件
につきましては以上といたします。

次に（2）報告事項①の、「令和3年度宇都宮市成人式に
ついて」、事務局から説明をお願いします。

事務局

【資料について説明】

西田委員長

ありがとうございます。ただいまの説明につきまして、ご
意見・ご質問がありましたら、お願いいたします。

よろしいでしょうか。

ようやくといたしますか、成人式ができるようになってよ
かったと思います。コロナの感染者が減っておりますけれ
ども、ぜひ安全第一でやっていただければと思います。ご意
見等ございますか。よろしいでしょうか。

全員

異議なし。

西田委員長

この件につきましては以上といたします。

次に（２）報告事項②の「地域かがやきプロジェクト（CKP）」について、事務局から説明をお願いします。

事務局

【資料について説明】

西田委員長

ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問ありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

令和２年度の例を出していただいておりますが、この「地域かがやきプロジェクト（CKP）」は、全てのセンターで行われているというわけではない、ということですね。

事務局

はい。現在は、希望したセンターのみが実施していますが、積極的に講座を実施するように促しているところです。

西田委員長

ありがとうございます。令和４年度の運営・事業方針にもあるように、やはりコロナ禍で失われたものの回復と維持ということにつながると思います。よろしくお願いいたします。他になれば、ここまでといたします。

次に（２）報告事項③「事例発表」について事務局から説明をお願いします。

国本生涯学習センター所長
大野

【事例発表】

防災講座（「国本生き生き教室」）について

- ・ 防災講座開催の経緯
- ・ 講座の内容
- ・ 講座参加者の様子

西田委員長

ただいまの事例発表について、ご意見・ご質問がございましたらお願いいたします。

石塚委員，お願いいたします。

石塚委員

姿川地区の石塚です。防災講座，非常に良いことだと思って聞かせていただきました。

今回の資料を見ると，宇都宮市の基本的な考え方に基づいて行われておりますが，国本地区そのものとして，具体的な地名とか場所だとかが出てきて，そこが災害になったらどうするというような，具体的で身近な内容が出てきたと思います。

この講座に参加した人はお分かりですが，実際はそれ以外の方がいっぱいいらっしゃるわけです。災害に遭われた時にどうするかということを考えていない方も多いと思います。

そのあたりについて，どのようなことをされたのかということで，質問いたしました。

国本生涯学習センター所長
大野

ただ今ご質問いただきました件につきましては，まず，「広報くにもと」という地区広報紙がございまして，研修内容について掲載し，自治会全戸配布しましたことと，先ほども説明いたしましたが，地区の防災体制につきましては，昨年度から地区内各種団体の役割分担であるとか，避難所は，市だけでなく地域の皆さんのご協力をいただかないと運営できないことから協議を重ねております。今はコロナ禍ということもございまして，対応する人員も多く必要になってまいりますので，コロナ禍における避難所体制をどのようにやっていくかということが最初に必要かと思っております。

講座はまだ2回目ですので，今後，委員の方から，今回お話いただいた内容を検討していくよう考えています。ありがとうございます。

西田委員長

他にございますでしょうか。

半田委員

この講座に参加させていただいたのですが、講習につきましては、全然想像していなかったような問題を指導者の方から提示されて、実際に避難所を開設するときの心構え、イメージをできたことがとても良かったと思いました。

国本地区は本当に災害の少ない地域なので、実際に起こるかはわかりませんが、イメージが自分でできていれば、今後災害が起きた時に思い出せるきっかけになるのではと思います。一人でもそのような方が増えるよう、みなさんにおすすめの講座だと思いました。

西田委員長

ありがとうございました。実際に参加された感想も含めましてご意見をいただきました。

小野委員

私も防災講座の件で伺いたいのですが、資料4-1参考2の写真ですが、男性が多く写っています。どのような人員構成をお考えでしたか。

国本生涯学習センター所長
大野

令和2年度に初めて講座を開催したということで、まずは地区の各種団体の長、自治会の会長の方をお願いしたところでした。そして、今年度につきましては、まだ受講されていない地区の団体や自治会から推薦いただいた方を対象として開催したところでした。写真は男性が写っていますが、女性も参加しています。

小野委員

伝令、伝達事項、名簿、連絡網や、避難所の運営・設営等についても想定して、講座は開かれたと考えてよろしいでしょうか。

国本生涯学習センター所長
大野

まず、講座につきましては、HUG（避難所運営ゲーム）で模擬体験をしていただくということと、国本地区の防災体制の役割の検討の中で地区の各種団体には、女性が構成員の団体や、婦人防火クラブなど、女性の団体もごございます。そういった団体のみなさんが、役割を持ち、運営をご支援いただけるかという検討を並行して進めました。ご質問の名簿や連絡網などは地区防災会で検討し、各団体の長、自治会長に配布済みです。

小野委員

避難や運営は、極端な話をすれば、「女性の住民を守るための連絡網、避難所づくり」というのが基本になるというのが県の考え方にあります。それと離れていたもので、これでのかなという疑問がわいたものですから、お尋ねしました。ありがとうございます。

西田委員長

ありがとうございました。あと1点ほどであればお受けいたします。

鈴木委員

発表ありがとうございました。

昨年度、横川中学校3年生の総合的な学習の時間に防災士さんに来ていただいて、HUGなどを行ったときに、地区の方に何人か来ていただきました。

中学生は一般的には子どもという見方をされますが、頼りにすればすごく力を発揮する大人の一員に近い年代でもあるので、地域とともに一緒に防災について考える機会というのを、全市でやっていけるといいのではと思っています。令和4年度の家庭教育支援の充実とか、地域との連携を重点項目の一つに挙げられているというところでも、関連付けて、中学生をやがて地域の人材として活躍できるように今から意識づけていくということができれば、中学生の自立心も高まるのではと考えます。中学生とタイアップするなどのお考えは今後ございますか。

国本生涯学習センター所長
大野

現状としては、令和2年度から始めたものですので、いただいたご意見を参考にさせていただきます。ありがとうございます。

西田委員長

ありがとうございます。順調なスタートが切れたと思いますので、回を重ねていただくとともに、こういった内容が他のセンターでも企画されていくといいと思います。

次に、瑞穂野地区生涯学習センターの事例発表ということで、坂本委員に発表をいただきます。よろしく願います。

【事務局】

地域における防災意識は年々高まっているということで、国本の事例なども、みなさんの参考になる話をいただいたところですが、生涯学習センターの講座とは異なりますが、研修や街歩きなど、地域の防災の関心を高め、地域コミュニティの活性化を図るための活動を積極的になさっている事例についてお話をいただきたいと思います。

瑞穂野地区委員の坂本様、お願いいたします。

坂本委員

【事例発表】

地域の防災研修について

- ・ 防災研修開催の経緯・目的
- ・ 研修の内容
- ・ 成果物について
- ・ 研修参加者の様子

西田委員長

坂本委員、ありがとうございました。ただいまの事例発表について、ご意見・ご質問がございましたらお願いいたします。

若園副委員長

こういった取り組みが宇都宮にできていくことは、非常にいいことだと思います。それをどう育てていくか、今回は瑞穂野地区の発表ですが、それを広げるか、あるいは地区によってやり方を検討する場を、生涯学習センターで行っていく必要があるのではと思います。

避難所には小・中学校も含まれますが、子どもたちとの関わり、活動を教えてください。

坂本委員

防災訓練などで、これまでも子どもたちとの関わりのある活動はしてきましたが、まず、各家庭に資料を配り、お子さんが中心となって、お父さん・お母さんと話し合い、「わが家の防災」について考えてほしい、ということをお願いしたいと思います。宇都宮市全体にそのような姿が広がってほしいです。

西田委員長

ありがとうございます。地図を見ますと、たしかに小学校、中学校は、避難所として使われています。中学校については、先ほど鈴木委員からお話がありましたが、小学校につきましては、避難所として使われるところも多いですし、連携もあるかと思います。

国本生涯学習センターのことも含めて、小学校校長会代表の口川委員、いかがでしょうか。

口川委員

小学校では、子どもたちの社会科の学習の中に、宇都宮市の副読本「わたしたちの宇都宮」がございまして、市内の社会科教員が、編集して作成したものです。

その中に、防災についての項目があります。消防署や、水害を防ぐといった学習がございまして、子どもたちが授業を受けているところを見ましたが、全くピンと来ていない様子で、何をやっているんだろう、と遠いことのように思ったのですが、地区の中には、もし、ため水があふれた時に、一時的にためておく場所があることや、体育館の2階にみなさんが避難したときの食料が入っていることなどを、実際に担任が見せて示したら、僕たちの学校にもあるんだ、という意識は持ったようです。ですが、こうした地図の上で、自分たちで確認するというところまでは至っていないので、せっかく宇都宮の地図も持って学習しているので、小学生は、小学生なりに、自分たちの地区について考える機会を持っていくことが必要だと感じました。

坂本委員

各地区の特性を生かして教えていってほしいです。また、地区のマップも作っていただきたいです。ため池の水の量や、例えば田んぼの用水路の様子など、小さなことも見逃さず、子どもたちの意識を高めるようにしてほしい。

生涯学習の中で、防災ということが出てきたのは素晴らしいと思うので、私も努力して皆さんに伝えていきたいです。

西田委員長

ありがとうございます。現場の貴重なご意見を発表いただきました。

他にございますでしょうか。

色々ありがとうございます。この防災活動の地図は非常にいいものだと思います。宇都宮市全域を分断して地図を出しているのですが、「万が一」「自分が」「私たちが」「僕たちが」という感覚を持ちにくい。

地理的感覚の強い人なら大丈夫かもしれませんが。このような大きい地図は、お子様、お母様、おうちの方などが防災に関心を向けるきっかけになるとと思います。

どんな土地でも、微高地とか、微妙な高低があるものです。しかし、このような地図を見ると、常に平面化されています。立体化すると、「このの堤防が決壊したときどこから水が来るのか」とか、それは、地域で車移動ではなく歩いてみて、初めてわかります。そのような立体図面は、微高地の1mの差でも全く違います。

それと、過去を学ぶ機会にもなります。五十里洪水などは特殊な事例ですが、ここ何年かであった氾濫などを調べ、そこへ行ってみようという、自分の住んでいる街が、過去にどのような土地利用をされていたのかということや、景観の変化などを学ぶ、地域を学ぶ、ジェネレーションを超えて学び、地域ぐるみの非常に良い絆を作っていくきっかけになるとと思います。

河内生涯学習センターのご報告を聞いていないので恐縮ですが、ぜひ、貴重な講座の成果を、市民だけではなく地域外の方々も含め、共有する手法はないかと思います。

例えば、地区センターに足を運んでみると、地区センターの講座の参加募集のパンフレットはたくさんあります。

しかし、終了した講座についての報告はない。終了した講座の成果を、我々は共有したいですから、成果の報告を、ビラでも何でも良いので、公開・閲覧できるような手段や、壁に掲示をするとともに、SNSやWebではなく、直接、生涯学習センターに足を運んでもらえるように、「生涯学習センターに行けばレジュメなどが直接見られる」という付加価値をつけることも、発信手法がコモディティ化していく中で、非常にリアルな装置として働くのではと思います。

もう1点よろしいでしょうか。私は、生涯学習センターの講座の申し込みについて、非常に公平であると思います。

よく、先着何名という形がありますが、それですと仕事をされている方が電話をかけられません。そのような方がお昼休みに電話をかけても、朝のうちに定員になってしまいましたということになります。

ところが、生涯学習センターの講座は、公平だと思います。大変だと思いますが、今後もこの形をお願いしたいです。

西田委員長

ありがとうございます。防災地図を含め、またいろいろなことを発信してくださると思います。

小中学校との連携の話題もありましたが、中学校からの情報発信に関する事例発表がございます、次に、(2)報告事項3の「事例発表」について、事務局からお願いいたします。

事務局

【事務局から説明】

河内生涯学習センター所長
湯澤

【事例発表】

地域学講座（「いきいき河内発見講座」）について

- ・ 地域学講座開催の経緯
- ・ 講座の内容
- ・ オンライン講座について
- ・ 成果物と成果物を活用した学びについて
- ・ 今後の展望について

谷内委員

【事例発表】

河内地区ガイドブック作成について

- ・ ガイドブック作成の経緯
- ・ ガイドブックの紹介

西田委員長

ありがとうございます。谷内委員が、姿川の副読本の紹介があったときに、非常に熱心に聞かれていたのを覚えています。大輪の花を咲かせたということですね。

河内のガイドブックが、またどこかの地区の役に立つかと思います。おそらく、先ほどの防災の関係のしおりもバージョンアップしていくかと思います。

子どもたちの視点から、自分たちが災害の時に何ができるかを考えるなど、いろんな可能性があります。そのヒントを、パンフレットによっていただいた気がします。ありがとうございます。

谷内委員

お話を聞いて、次にバージョンアップして作る際には防災のページが必要だと思いました。

また、マップにも、ガイドブックにもまちづくり協議会のホームページにつながるQRコードが付いています。

これを見ていただくと、ガイドブックに載っている場所の説明にたどり着くという工夫がされています。ホームページの情報は更新されます。

もう一点よろしいでしょうか。講座の振り返りについて、河内地区では3か月に1回、まちづくり情報誌かわちという冊子を出しております。

これから行う講座についても載っておりますが、先ほど所長から話した、中学生の講座についても掲載され、中学生が生まれる前から河内に住んでいる人が、中学生の授業を聞き、地域を歩きたくなったという内容を載せています。

西田委員長

子どもたちの視点から、自分たちが災害の時に何ができるかを考えるなど、いろんな可能性があります。そのヒントを、パンフレットによっていただいた気がします。ありがとうございます。

防災に関しても、ぜひ、地区の防災会の方と連携していただければと思います。今日は各センター長さんにお越しいただいていますので、ぜひ、いろんな団体の方とも連携していただくということをお願いできればと思います。

他に質問がございましたらお願いいたします。

坂本委員

私も、生涯学習センターには昔から関わってきましたが、生涯学習だけでなく、地域との連携、企業との連携が出てきました。

行事のときは、生涯学習センターだけでなく地域が一体となり、地域、学校、企業が関わっていただくことで、「自分関係ない」ではなく、地域のことが分かってきます。あまり型にはまることなく行ってほしいと思います。

石塚委員

すみません、姿川地区の宣伝です。中学生、高校生を対象に姿川リーダーズクラブというものを実施しています。

これは、地区の行事でゲームをやったり、体を動かしたりとリーダーとしてできる子どもたちを育てることが目的です。

今回、地区の生涯学習センターで、小学4～6年生を対象にジュニアチャレンジ教室として行いますが、リーダーズクラブの子がどのようなことをやっているか見てもらい、その子たちにも学んでもらうという、中学生までつないでいくということをやっておりますので、紹介いたしました。

西田委員長

貴重な情報をありがとうございます。それでは進行を事務局をお願いします。

事務局

【次回の会議日程等の説明】

本日は委員の皆様、ご審議をありがとうございました。以上を持ちまして本日の会議を終了いたします。ありがとうございました。